令和５年　　１１月　３０日

令和５年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和５年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

令和5年4月18日（火）

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問紙）

中学校　第２学年　　（国語，社会，数学，理科，英語，質問紙）

4　本校の実施状況

第４学年	国語	１３人	算数	１３人	理科	１３人
第５学年	国語	１２人	算数	１２人	理科	１２人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

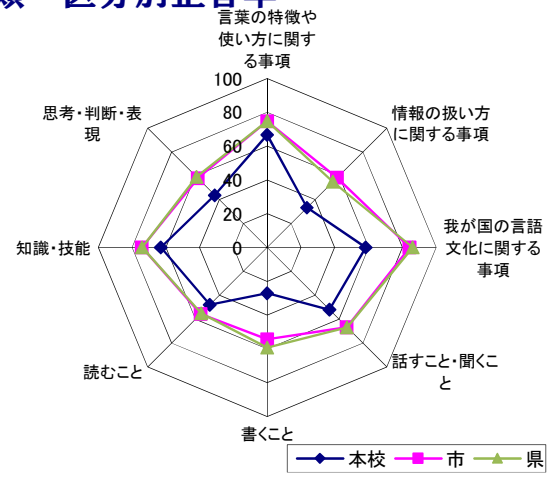
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内西小学校第４学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	66.7	74.7	74.8
	情報の扱い方に関する事項	33.3	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	58.3	84.3	86.1
	話すこと･聞くこと	52.1	66.7	66.9
	書くこと	27.1	54.3	59.3
	読むこと	47.9	55.6	55.2
観点	知識･技能	62.9	74.1	74.0
	思考･判断･表現	43.8	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

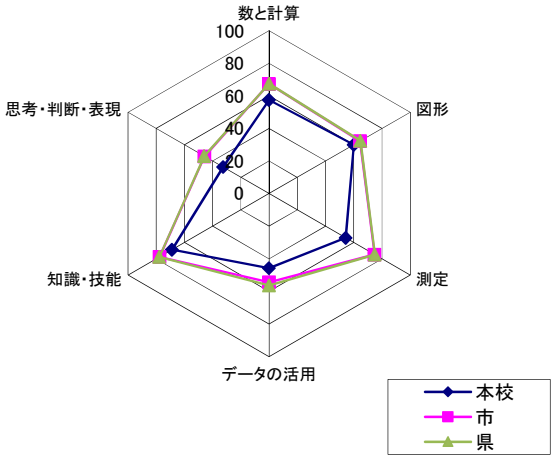
○良好な状況が見られるもの●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は，市の平均より低い。 ○主語，述語の適した組み合わせを選ぶことは，市の平均値よりやや高い。漢字の読み書きは，8割の児童ができている。また，指示語に関しては，絵を見て正しく選ぶことができている。家庭学習で，日記指導や漢字練習を日頃から取り組んでいる成果であると考えられる。 ●ローマ字の習得は低い。	･今後も，家庭学習の日記指導や漢字練習を通して，正しい主語や述語の使い方や，文中で既習漢字を使えるよう，常時指導していく。 ･ローマ字の習得は，不十分であるため，家庭学習の課題に取り入れたり，タイピング練習などを行ったりして定着を図るようにする。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は，市の平均より低い。 ●国語辞典の使い方を理解し，例文で用いられた言葉の意味として適した語を選ぶことができる児童が少ない。	･国語辞典を使う経験が日常的に少ないので，新しい単元に入る際，意味調べを家庭学習に取り入れるなど，国語辞典の使用頻度を増やす。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は，市の平均より低い。 ●漢字が，へんやつくりなどから構成されていることの理解が不十分である。	･漢字をなぜそのつくりになったか，なぜそのへんなのかなど，漢字の成り立ちについて考える経験が少ないので，国語辞典を使用する際に部首について学ぶ活動を取り入れる。
話すこと・聞くこと	平均正答率は，市の平均よりやや低い。 ●自分の考えを理由を挙げながらまとめることに課題がある。	･メモを取りながら話を聞き，話の内容を捉える活動を学習の中に意識して取り入れていく。また，自分の考えをまとめることに課題が見られるため，授業の振り返りなどにおいて，考えを短くまとめる活動を取り入れる。
書くこと	平均正答率は，市の平均より低い。 ●指定された長さで書いたり，段落の役割を理解して文章を書くことに課題がある。また，自分の考えを明確にして理由や事例を挙げながら書くことにも課題がある。	･家庭学習の日記指導で，2つの事例を挙げ，自分はどちらがよいか，考えと理由を書く活動などを取り入れる。また慣れてきたら，その都度，字数，段落数など条件を付けて書く活動を取り入れるなど，段階を踏んで指導していく。
読むこと	平均正答率は，市の平均より低い。 ○文と文のつながりを捉え，抜けている文を挿入するものを選ぶことができている。 ○叙述を基に内容を捉えることは8割の児童ができている。 ●物語の登場人物の気持ちをについて叙述を基に捉えたり，感じたこと分かったことを共有したりすることが苦手である。	･今後も，読み取りの力が付くように，朝のプリント学習を充実させていく。 ･登場人物の気持ちを捉えたり，想像したりすることに課題が見られるため，今後も読書活動を取り入れていく。

宇都宮市立上河内西小学校第４学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	57.5	67.3	67.4
	図形	60.0	64.5	64.7
	測定	54.2	74.7	74.9
	データの活用	45.8	54.4	56.4
観点	知識・技能	68.8	77.6	77.8
	思考・判断・表現	32.5	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

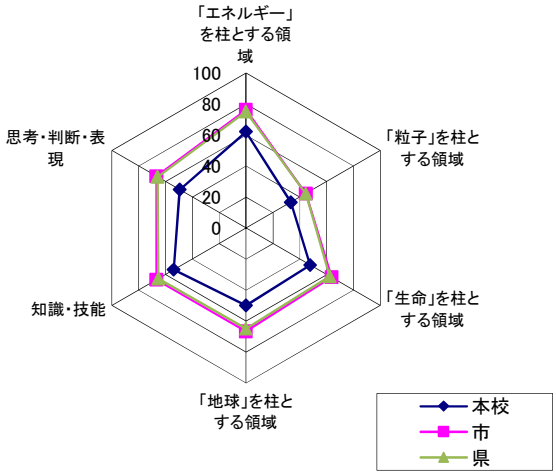
○良好な状況が見られるもの●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は，市の平均より低い。 ○万の単位について理解し，大きな数の表し方や構成を理解し，正しいものについて選ぶことができる。 ●□を使った式に合う問題を選ぶことに課題が見られる。 ●3けた－3けたの計算に課題が見られる。 ●あまりなしの2けた÷1けたの計算に課題が見られる。	・わり算の基礎となるかけ算が定着していないため，朝の学習や授業の冒頭などに九九の暗唱やミニテストを行い，かけ算の意味づけを図っていく。 ・たし算，ひき算の筆算などの基礎基本の計算を繰り返し復習する。
図形	平均正答率は，市の平均より低い。 ○二等辺三角形の作図においては，市の平均よりも7％高い。児童が興味をもって作図活動に取り組んだり，ドリルやプリントを用いて反復練習をしたりした成果だと考えられる。 ●球の性質を利用して長さを求めることに課題が見られる。 ●円の性質を考え，正三角形が作図できることを説明することに課題が見られる。	・円と球の復習として練習問題に取り組ませ，円や三角形の性質について説明する活動を授業に取り入れて，性質の理解を図る。
測定	平均正答率は，市の平均より低い。 ●はかりのめもりを読み取って，重さを答えることに課題が見られる。 ●身近なものの重さを見当づけることに課題が見られる。	・身の回りの物で1kgを作るなどの活動を取り入れて，物の重さを見当づけられるようにする。目盛りを読み取る際に，はかりによって目盛りの大きさが異なることや何kgまではかれるはかりなのかを確認する習慣を付けさせる。
データの活用	平均正答率は，市の平均より低い。 ●2つの棒グラフを比べ，1めもりの大きさに注意しながら読み取ることに課題が見られる。	・表題や目盛りの大きさなどのポイントを確認してからグラフを読み取る習慣を付けさせる。

宇都宮市立上河内西小学校第４学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	62.1	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	33.3	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	47.7	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	50.0	66.6	64.9
観点	知識・技能	53.9	66.8	65.4
	思考・判断・表現	49.4	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は，市の平均より低い。 ○ゴールに車を止めるために必要だと推測されるゴムの長さを選ぶことは，県と市の平均よりも高い。具体物を用いた説明や実験などにより，理解が深まったと考えられる。 ●電気を通す性質があるものの名称を答えることについて，理解が不十分である。	・様々な導線のつなぎ方や回路を示して，電気が通るかどうかを考える活動を取り入れるなど，具体物を操作したり，図示したりすることで，理解を図っていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は，市の平均より低い。 ●姿勢を変えて測った体重がどのようになるかを選び選んだ理由を考えることについて，理解が不十分である。 ●同じ種類の木でできている積み木を答えることについて，理解が不十分である。	・体積と重さの関係を確認し，具体物を提示して復習しながら，知識の定着を図っていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は，市の平均より低い。 ○正しい草丈の測り方を選ぶことは，県や市の平均よりも高い。植物の観察の際に，体験的に学んだ成果であると考えられる。 ●記録カードを比べてわかることを選ぶことについて，理解が不十分である。	・植物の正しい観察の仕方や記録の仕方について，教科書の写真やデジタル教材の動画等を用いることで，理解を図っていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は，市の平均より低い。 ○かげと太陽の位置についてあてはまる内容を選ぶことでは，県や市よりもやや高い。具体物を用いた説明や実験などにより，理解が深まったと考えられる。 ●温度計の使い方を選ぶことについて，理解が不十分である。	・ペア学習やグループ学習を取り入れて実際に観察活動をしながら，正しい用具の使い方や観察の仕方の理解を深めていく。観察の結果をまとめていく場面では，話合いや練り合いを意図的に取り入れていく。

宇都宮市立上河内西小学校 第４学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

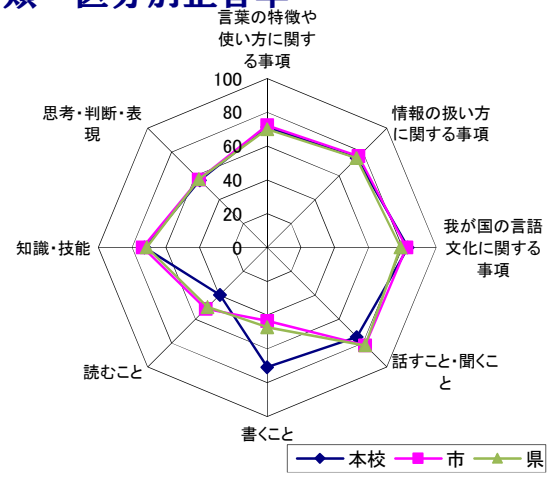
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「本やインターネットなどを利用して，勉強に関するじょうほうを得ている」と回答した児童の割合は75％で，市の平均を大きく上回っている。学校や家庭において，クロームブックを活用した学習を進めている成果が表れている。
　今後は，情報技術の利用において，自ら正しく判断し，責任をもって行動する力の育成など，デジタルシティズンシップ教育を進めていく。
○「グループなどでの話合いに自分から進んで参加している」と回答した児童の割合は91.7％で，市の平均を大きく上回っている。本校において，力を入れている話合い活動の充実の成果が表れている。
　今後は，より深い学びにつながるような，話合いの進め方について指導していく。
○「家の人としょう来のことについて話すことがある」と回答した児童は83.3％で，市の平均を大きく上回っている。児童たちが家の人と，学校のことや将来のことについてよく会話をしている様子が伺える。
　今後も，学年だよりや学年部会等を通して，家庭に協力をお願いしていく。
●「授業を集中して受けている」と回答した児童の割合は75％で，市の平均を大きく下回っている。今まで以上に，児童への声掛けや机間巡視に力を入れ，授業に集中できるように指導をしていく。また，児童が興味をもって取り組めるような課題の精選にも，より力を入れていく。
●「むずかしいことでも，失敗をおそれないでちょう戦している」と回答した児童の割合は58％で，市の平均を大きく下回っている。学級活動や道徳等の指導を通して，挑戦することの大切さを伝えていく。また，安心して挑戦することができる学級風土を醸成していく。
●メディアとの付き合い方に関する質問において，テレビやゲーム等を長時間使っている児童が多い。特に，テレビやゲームを4時間以上使用している児童が半数もいる。児童に適切なメディアとの付き合い方について考えさせるとともに，学年だよりや学年部会等を通して家庭に協力を仰いでいく。

宇都宮市立上河内西小学校 第５学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	71.3	72.3	70.0
	情報の扱い方に関する事項	75.0	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	83.3	82.4	78.9
	話すこと･聞くこと	75.0	81.9	82.0
	書くこと	70.8	43.5	47.2
	読むこと	39.6	51.4	49.8
観点	知識･技能	72.7	73.6	71.3
	思考･判断･表現	56.3	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

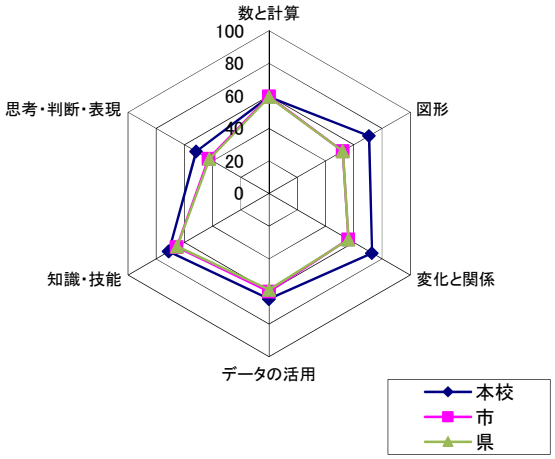
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は，市の平均とほぼ同じである。 ○漢字を正しく読み，書くことができる。定期的な漢字の確認テストを継続した成果と考えられる。 ○条件に応じた文を書くことができる。作文や日記を書かせる活動を授業や家庭学習で繰り返し取り組んでいる成果と言える。 ●修飾語についての理解が不十分である。	･読書を通して様々な文章表現にふれることで，語彙や文章表現の幅を広げる。 ･作文や日記を書かせる活動を授業や家庭学習で繰り返し行う。 ･文の構成について復習を行い，主語，述語，修飾語などの役割について確認する。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は，市の平均とほぼ同じである。 ○漢字辞典の使い方を理解し，使うことができる。授業中，新出語句や慣用句など積極的に漢字辞典の活用を促すことで，言葉の理解だけでなく漢字辞典の使い方の理解が深まったと考えられる。	･漢字辞典の使い方を確認するとともに，日常的に漢字辞典を使う機会を設けていく。 ･文章の要約をする上で，必要な事柄を見つけられるよう，読み取りのポイントを押さえたり，読み取ったことを自分の言葉でまとめたりする学習を継続していく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は，市の平均とほぼ同じである。 ○ことわざの意味を理解して，自分の表現に用いることができる。ことわざや慣用句などを使った短文づくりを継続して行うことで，活用の幅が広がった成果と思われる。	･普段からことわざや慣用句，四字熟語といった伝統的な言語文化に触れる学習を授業の中に取り入れていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は，市の平均を下回っている。 ●話し手が主として伝えたいことを聞き取ったり，その内容を要約したりする力が不十分である。	･聞くことにおいて，相手の伝えたいことを理解しようとするとともに，相手の話し方を捉えたり，話全体の大まかな内容を掴んだりできるよう，指導していく。 ･相手を意識した話し方について，伝えたいことをはっきりさせたり，相手の様子を伺いながら話したりできるよう，指導していく。
書くこと	平均正答率は，市の平均を大きく上回っている。 ○アンケート結果を読み，指定された長さや2段落構成で文章を書くことができる。基本的な文の構成を踏まえた条件作文指導を定期的に行った成果と考えられる。 ○内容の中心を明確にして，読み取ったことや自分の考えを書くことができる。	･日記や作文を書く際に，字数制限を取り入れたり，必ず自分の気持ちや考えを書くよう指導したりしていく。 ･個人差が大きく，苦手としている児童が多い領域のため，短文作りなどを日常的に取り入れ，文章を書くことへの抵抗感をなくすように努める。
読むこと	平均正答率は，市の平均を下回っている。 ●説明文，物語文ともに叙述を基に内容を捉えることに課題が見られる。特に，登場人物の心情を読み取ることに課題が見られる。 ●説明文では，段落相互の関係を捉えることに課題が見られる。	･物語文では，叙述を基に場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化を正確に読み取ることができるように，情景に関する言葉に着目させ，その言葉のもつ意味や意図を確認しながら指導していく。 ･説明文では，全体的な内容の把握だけでなく，文章が「始め･中･終わり」に分けられることや，文章の中から問いと答えを見つけることなどの文章構成が理解できるように指導していく。

宇都宮市立上河内西小学校 第５学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	59.4	59.7	59.2
	図形	70.8	52.1	52.1
	変化と関係	72.9	56.1	56.3
	データの活用	64.6	60.1	58.9
観点	知識・技能	71.1	65.5	65.1
	思考・判断・表現	51.7	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

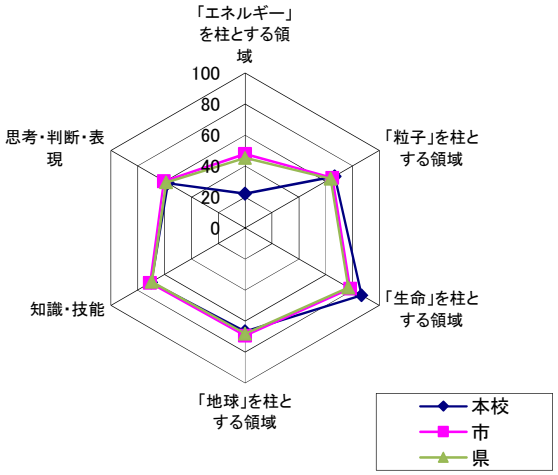
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は，市の平均とほぼ同じである。 ○問題に合うように数字をがい数に直した見積もりの式を選ぶことができる。 ●小数の筆算はできるが，小数の計算の仕方を説明することが不十分である。 ●数直線を基にして，分母の異なる分数の大きさを比較することが難しい。	・分数を数直線などに表して数直線の意味や数の大きさを確認することで分数の大きさについての理解を図るようにする。 ・小数を数直線などの図に表して，小数の大きさや仕組みを定着させたり，整数を基にして計算できることを確認して繰り返し復習したりすることで，小数と小数の計算の仕組みを理解させる。
図形	平均正答率は，市の平均を大きく上回っている。 ○身近な物のおよその面積を選ぶことができる。 ○面積の単位について説明した文章の空欄に当てはまる数を答えることができる。 ○コンパスを使ってひし形の作図をすることができる。朝の活動などで四則計算や作図の復習を継続して行った成果と考えられる。 ●180度より大きい角の大きさの求め方が定着していない。	・角度の測り方を復習するとともに，180度より大きい角度の求め方を説明する活動を取り入れて，角度の求め方の定着を図る。
変化と関係	平均正答率は，市の平均を上回っている。 ○2つの数量の関係をもとの大きさの何倍になったかを考えて説明することができる。文章問題において，数直線に表して考えるなど，文章を正しく読み取るための手立てを行ってきた成果と考えられる。 ●市の平均より下回っているところはないが，伴って変わる2つの数量の関係について，表を縦に見て気づいたことを説明することに課題が見られる。	・2つの量の関係について，自分の考えを直接書き込んだ表を見て作文していくなどのスモールステップの活動を積み重ねていき，自分の言葉で説明できるようにする。
データの活用	平均正答率は，市の平均を上回っている。 ○データを表の適切な場所に書くことができる。 ●データを表に表すことはできるが，二次元表の性質を使って表にあてはまる数を見出すことにつまずきが見られる。	・クラスでアンケートを取るなどして，身近な題材で表を作り，二次元表を読み取る活動を行うことによって，表の性質を使って表にあてはまる数を求めることができるようにする。

宇都宮市立上河内西小学校 第５学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	22.2	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	66.7	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	86.7	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	66.7	69.5	68.1
観点	知識・技能	70.0	70.8	69.5
	思考・判断・表現	57.6	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は，市の平均を大きく下回っている。 ●電流の流れ方の理解が不十分である。特に，電池のつなぎ方とその名称，検流計のしくみについて，市の平均を大きく下回っている。	・実験器具の名称や使い方を丁寧に確認することで理解を深められるようにする。 ・電流の流れなど目視しにくいものは，図解などで電気の流れをイメージしやすくしたり，電流計などを使い数値で確認したりすることで，変化について考えやすくする。 ・実験の結果から導き出される考察を，授業で学ぶ科学的な言葉とともに関連付けて考えさせる。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は，市の平均を上回っている。 ○閉じ込めた空気や水に力を加えたとき，空気や水の変化の実験を正確に記録し考察を行ったため，ほとんどの問題において市の平均を上回っている。 ○温度による空気や水，金属の体積の変化の実験では，予想と結果の相違を確認したことにより，ほとんどの問題において市の平均を上回っている。 ●科学的な事象について，学習したことと関連付けながら分かりやすい言葉で表すことが難しく，無回答があった。	・金属や空気の温まり方に関する理解を深めるため，実験の結果から生活の中での事象に該当するものを思い起こさせるようにする。 ・思考力・表現力の向上を図るため，授業において自分の考えを根拠を示しながら説明することや，順序立てて考える活動を多く取り入れる。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は，市の平均を上回っている。 ○サクラの様子がどのように変化するかを理解している。1年間，校庭の木々の変化を確認したためと考えられる。 ●季節の変化と1年間のカエルの生態の関連性への理解が不十分である。	・生活の中で学習の内容が，どのように関連付いているか，生かされているかを折に触れて取り上げ考えさせる。 ・「１年間の動物のようす」では，動物の変化を温度の変化と関連付けて考えさせる。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は，市の平均とほぼ同じである。 ○星のならびや動き方について理解している。自宅で観察したり動画で確認したりしたためと思われる。 ○調べて分かったことから，土の粒の大きさと水のしみ込みやすさの関係を読み取ることができる。実験の予想と結果を基に考察したことで読み取れたと考えられる。 ●方位磁針の正しい使い方への理解が不十分である。 ●水の流れと地面の傾き，水の変化についての理解が不十分である。	・実験によって導き出される結果から，どのようなことが言えるか考察を自分でしっかり考え，話し合うことで，見方や考え方を広められるようにする。 ・理科の実験において，結果の考察を記述する習慣を付けていく。

宇都宮市立上河内西小学校 第５学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「家で，学校の宿題をしている」という設問の肯定回答が100%であった。「家で勉強するときに，だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」という設問の肯定回答も県の平均を上回っており，家庭学習記録カードや自主学習メニューを設けることによって家庭学習の習慣化が図られ，決められた内容だけでなく，自主学習等で自分で考えて学習に取り組めていることが分かる。継続して続けられるよう，声掛けを行っていく。
○1か月の読書量5冊以上が58.3%と県の平均を大きく上回った。下学年からの読書に対する積極的な取組によって継続的な読書の習慣化がされていることが分かる。
○「だれに対しても，思いやりの心をもってせっしている」という設問の肯定回答が91.7%で，県の平均をやや上回っている。今後も，授業や日常的な場面を通して思いやりをもって生活していけるよう声掛けを行っていく。
●「学校での役わりや係の仕事にせきにんをもって取り組んでいる」という設問の肯定回答が66.7%であった。また，「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の設問では肯定回答が58.4%であり，自分の取組がクラスの中で役立っていると感じていない児童がいることが分かった。一人一役の当番活動や係活動，委員会活動を活発に行わせ，取組について振り返り，称賛する場を設けていく。
●「自分には，よいところがあると思う」という設問の肯定回答が66.7%であり，県の平均をやや下回っている。一人一人が活躍できる場や帰りの会で友達を称賛する場を設けているが，これからも教師から積極的に声を掛けたり，児童同士で褒め合える場を設定したりし，自己肯定感を高めていく。
●「授業の最後に，学習したことをふり返る活動をよく行っている」という設問の肯定回答が58.3%であった。授業の中で振り返りを書く時間は設けているが，それを互いに伝えたり発表させたりといった活動を行うことが不十分であったので，授業の中に活動として取り入れていく。
●平日の一日あたり2時間以上テレビゲームをする児童が33.3%であり，その中でも4時間以上と回答した児童が8.3%であった。家庭での時間の使い方について，家庭と連携をして支援をしていく。

宇都宮市立上河内西小学校（第４・５学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	今年度も，年度初めの懇談会で，家庭教育の重要性を学習指導主任より話し，家庭学習強化週間を年2回実施することの協力を依頼している。	家庭学習については，4年生で7割，5年生で5割の児童が学年でめやすとしている時間よりも長く実施している。また，「家で勉強するときに，だいたい同じ時こくに取り組むようにしているか」については，4・5年生とも半数が肯定的な回答をしている。家庭学習の習慣は身に付いてきたので，生活のリズムを整えられるよう保護者への啓発を図る。 「自分で計画を立てて取り組んでいるか」については，5年生で8割の児童が肯定的な回答をしているのに対して，4年生では6割であった。学校から出された宿題に取り組むだけでなく，自ら学習内容を決めるような主体的に学びに向かう学習習慣を身に付けていく。
毎時間，各授業での振り返りとテストの振り返りを実施	主体的に学習に取り組む態度を育てるために，授業のねらいに沿った振り返りの視点を基に振り返りを書く活動を積み重ねた。テストにおいても，分析をさせることで，次につなげられるようにしてきた。	「授業の最後に，学習を振り返る活動を行っている」と回答した児童は，4年生で7割，5年生で5割弱であった。学校全体の取組として，振り返り活動を行っているが，児童と何のために行うのか，それをどう生かしていくのかという共通理解が図れていない可能性がある。主体的な学習に向けて，児童と共通理解を図りながら，振り返りも含めたPDCAサイクルでの学習を進めていく。
授業における話合い活動の充実	授業の中に意識的に話合いの場を設け，互いの考えを伝え合うだけにとどまらず，友達の意見と自分の意見を比べて聞いて，考えを深めたり修正したりして練り合いながら話合いが行えるよう指導している。	「グループなどの話合いに自分から進んで参加している」と回答した児童が，4年生では市や県の平均を上回っているが，5年生では下回った。クラスの実態に合わせ，ICTなどを活用し，一人一人の意見を反映できるような場の設定やペア，トリオ，グループ，全体など段階的に話合いの場を設けるなどの工夫をしていく。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
4・5年生の国語の「読むこと」の領域が市の平均よりも低い。また，4年生においては，「書くこと」についても市の平均を下回っている。登場人物の気持ちの変化について，叙述を結び付けて具体的に想像することや指定された条件で読み取ったことを文章に表すことに課題が見られる。	叙述を基に気持ちを考えられるように，文章に線を引かせる。また，条件を設定し，文章を書く活動を取り入れていく。	複数の叙述に基づき，登場人物の相互関係を踏まえた言動や情景などに着目させるようにし，線を引いたり，印を付けたりするなど視覚的にも分かるようにしていく。また，要旨を書く活動や図表から読み取ったことを文章にまとめるなど，様々な場面で書く活動を取り入れていく。